目　录

引言……（1）

第一章　宋代军法制度研究……（5）
第一节　宋代军法的内容……（5）
一　军中阶级法……（5）
（一）禁军、厢军阶级法 ……（6）
（二）乡兵、弓手阶级法 ……（8）
（三）余论 ……（10）
二　擅兴律 ……（13）
三　士兵逃亡法 ……（15）
（一）不同军种、职责的士兵逃亡法……（16）
（二）敏感地区的士兵逃亡法 ……（24）
（三）士兵逃亡追官法 ……（27）
（四）士兵逃亡首身法 ……（29）
（五）余论 ……（37）
四　战时军法 ……（39）
（一）战时军法的初创 ……（39）
（二）战时军法的成熟 ……（41）
（三）战时军法的完善 ……（45）
（四）余论 ……（51）
五　军中诸禁律 ……（52）

(一)禁止军人躲避征役 …… (52)
(二)禁止军人典卖军事装备 …… (53)
(三)禁止军人私蓄、私造兵器 …… (54)
(四)禁止军人赌博 …… (55)
(五)余论 …… (55)
六 主兵官禁约 …… (57)
(一)禁主兵官交结 …… (57)
(二)禁主兵官私役军士 …… (59)
(三)禁主兵官刻剥军士 …… (62)
(四)余论 …… (63)
七 小结 …… (66)
第二节 宋代军法的适用对象 …… (67)
一 惩治干预政事的宦官 …… (68)
二 惩治泄露国家机密者 …… (68)
三 惩治国家或地区遭遇天灾人祸之时而趁火打劫者 …… (69)
四 惩治导致国家铸币外流者 …… (69)
五 惩治私自渡淮者 …… (70)
六 惩治从事非法跨界贸易者 …… (70)
七 惩治造成临安城火灾者 …… (71)
八 惩治犯罪情节恶劣者 …… (72)
九 惩治其他方面的犯罪者 …… (72)

第二章 宋代军事刑罚制度研究 …… (74)
第一节 宋代军事刑罚的种类 …… (74)
一 基本军事刑罚 …… (74)
(一)死刑 …… (75)
(二)流刑 …… (77)
(三)徒刑 …… (77)
(四)杖刑 …… (78)
(五)笞刑 …… (78)
二 军中小杖制 …… (78)

三 法外之刑 …… (81)
四 赎刑 …… (84)
(一)军官赎刑 …… (84)
(二)士兵赎刑 …… (86)
第二节 宋代军事刑罚的适用原则 …… (87)
一 军人从重的原则 …… (88)
二 战时从严的原则 …… (89)
三 禁军从重的原则 …… (89)
四 配军从重的原则 …… (89)
五 边地从重的原则 …… (90)

第三章 宋代军事司法制度研究 …… (91)
第一节 宋代军事司法机构 …… (91)
一 中央军事司法机构 …… (92)
(一)大理寺 …… (92)
(二)刑部、审刑院 …… (93)
(三)御史台 …… (94)
(四)枢密院 …… (94)
(五)三衙 …… (95)
二 京畿军事司法机构 …… (96)
(一)开封府、临安府 …… (96)
(二)纠察在京刑狱司 …… (97)
(三)排岸司 …… (98)
三 地方军事司法机构 …… (99)
四 临时军事审判机构 …… (104)
第二节 宋代军事审判制度 …… (105)
一 日常军事审判制度 …… (105)
(一)起诉 …… (105)
(二)审判管辖 …… (113)
(三)上诉、复审、死刑复核 …… (120)
(四)军官奏裁制度 …… (124)

二 战时军事审判制度……(129)
第三节 宋代军事司法制度的特点……(134)
一 中央军事司法机构的专门化……(134)
二 地方军事司法权过于分散……(135)
三 各军种的军事司法管辖不尽相同……(135)
四 重视军人死刑案件的复核……(135)

第四章 宋代军法实际操作问题考察……(137)
第一节 宋代对军官触犯军法的处置……(137)
一 宋太祖、宋太宗时期……(137)
二 宋真宗、宋仁宗时期……(141)
三 宋神宗时期……(145)
四 宋哲宗、宋徽宗、宋钦宗时期……(147)
五 南宋时期……(150)
六 小结……(154)
第二节 宋代对士兵触犯军法的处置……(156)
第三节 宋代对叛军的处置……(158)

第五章 宋代军法与军政……(163)
第一节 宋代军法与“崇文抑武”治国方略……(163)
一 “崇文抑武”方略下的宽纵武将之道……(164)
二 将权不专对军队执法的影响……(168)
第二节 宋代军法与军政之走向……(171)
一 北宋“将懦卒骄惰”现象及亡国……(171)
二 南宋“将骄卒惰”现象及亡国……(177)

结语……(181)

附录一 《宋刑统·擅兴律》……(185)

附录二 《武经总要·罚条》……(189)

附录三 建炎“军制二十一条”……(193)

附录四 南宋忠义巡社条法……(195)

附录五 宋代军婚保护法考……(201)

主要参考论著……(204)

后记……(212)